

「1950年代教育史」研究部会（第32回）

日時：2019年1月18日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）大島宏研究員報告：山梨県高等学校分校1 分校の設置状況

◆個別対象として山梨県高等学校分校に注目する

（分校の設置状況に特徴があり、資料の残存状況が良い）

- ・山梨県の分校設置状況は、定時制に占める分校の割合が比較的高い割合を占めており、50年代前半に割合が増加し、50年代後半に減少する

- ・山梨県高等学校分校に関する資料状況

県立図書館に1952年度から1960年度までの各高等学校の要覧が所蔵されている。通常課程・定時制課程それぞれについて、教科課程・生徒数・学費・志願者数など、詳細なデータが記載されている。これらを基に分析すると、山梨県の分校の設置状況は全国的動向と同じように、50年代前半の増加期には分校への関心も高まり、充実していくが、50年代後半の減少期は研究的関心も無くなっていく。他方、学科課程の割合では山梨は全国的傾向と異なっていることが確認できる

（2）鳥居和代研究員報告：これまでの研究報告の補足など — 先行研究・追補資料・資料調査（番外編） —

- ・先行研究：1950年代の子どもの長期欠席問題（千葉県）に関する近年の研究の紹介『千葉大学教育実践研究』『千葉大学教育学部研究紀要』などに近年いくつかの論文がある。中央青少年問題協議会や文部省の戦後最初の長欠調査などについて論じたもの→千葉県教育研究所『長期欠席の子どもたち』も扱われている
- ・追補資料：「青少年問題」としての子どもの長期欠席問題
文部省青少年教護分科審議会編『青少年の教護について』『青少年の不良化と教護』
青少年問題対策協議会「青少年問題対策協議会決定事項」『青少年問題の現状とその対策』
他→などの資料を活用しながら、青少年不良化の入り口として長期欠席が問題となる経緯もみる
- ・資料調査：安房教育研究所 研究所の運営と事業、所蔵資料（紀要：高校進学者について）
→須田研究員・大島研究員の参考に

・次回研究会は、2019年2月22日（金）13:00～。西山研究員、米田研究員

・次回以降の研究会 2019年3月26日（火）13:00～